

問題作成方針に関する検討の方向性

これまでの問題作成方針で示してきたことを引き続き重視しつつ、新学習指導要領「現代の国語」、「言語文化」それぞれで育成する資質・能力を、試験問題全体を通じて評価する。

具体的には、新たな大問を追加し、より多様な文章を扱うことで、言葉による記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を重視して、目的や場面に応じて必要な情報と情報の関係を的確に理解する力や、様々な文章の内容を把握したり、適切に解釈したりする力等も含め多様な資質・能力を評価できるようにする。

また、各大問では、引き続き、近代以降の文章（論理的な文章や実用的な文章、文学的な文章）、古典（古文、漢文）を題材として、試験時間（90分）との関係に留意しつつ、それぞれの題材の意義や特質を一層生かした出題となるよう工夫する。

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等 | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

【問題作成方針のポイント】

- ・検討の方向性では「言葉による記録、要約、説明、論述、話し合い」など具体的な言語活動が明示され、問題作成方針に反映されている。
- ・令和7年度の問題作成方針では、「それぞれの題材の意義や特質を一層生かした出題」が明記された。「一層」とあることから、今までもこの方針であったことが読み取れ、さらにこの傾向が強まると考えられる。



問題作成方針

【令和7年度】

言語を手掛かりとしながら、文章の内容を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて、情報を的確に理解したり、より効果的な表現に向けて検討、工夫したりする力などを求める。近代以降の文章（論理的な文章や実用的な文章、文学的な文章）、古典（古文、漢文）を題材とし、言葉による記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を重視する。

問題の作成に当たっては、題材の意義や特質を生かした出題とするとともに、大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた、複数の題材による問題を含めて検討する。

参考【令和6年度】

言語を手掛かりとしながら、文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求める。近代以降の文章（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章）、古典（古文、漢文）といった題材を対象とし、言語活動の過程を重視する。

問題の作成に当たっては、大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた、複数の題材による問題を含めて検討する。